

安全安心なまちへの架け橋が完成

平成橋開通式

9月2日(土)、市内二日市中央を流れる高尾川に新たに「平成橋」が完成し、高尾川・鷺田川改修促進期成会の皆さんによる開通式が挙行されました。式には期成会の皆さん、福岡県那珂県土整備事務所、市関係者が出席しました。

この改修工事は、高尾川床上浸水対策特別緊急事業の一環で福岡県那珂県土整備事務所が実施しており、豪雨に

よる浸水被害を防ぐため、川の流れを阻害していた水道橋を架け替えたものです。

平成橋の長さは12・5メートル、車道幅員が5メートルとなり、以前よりスムーズに通行ができるようになりました。また、水道橋より橋の面の高さが約1・2メートル高くなり、水位が上がったときの高尾川の流下能力が向上しました。



出席した皆さんで渡り初めを行いました



水道橋(左)と完成した平成橋(右)

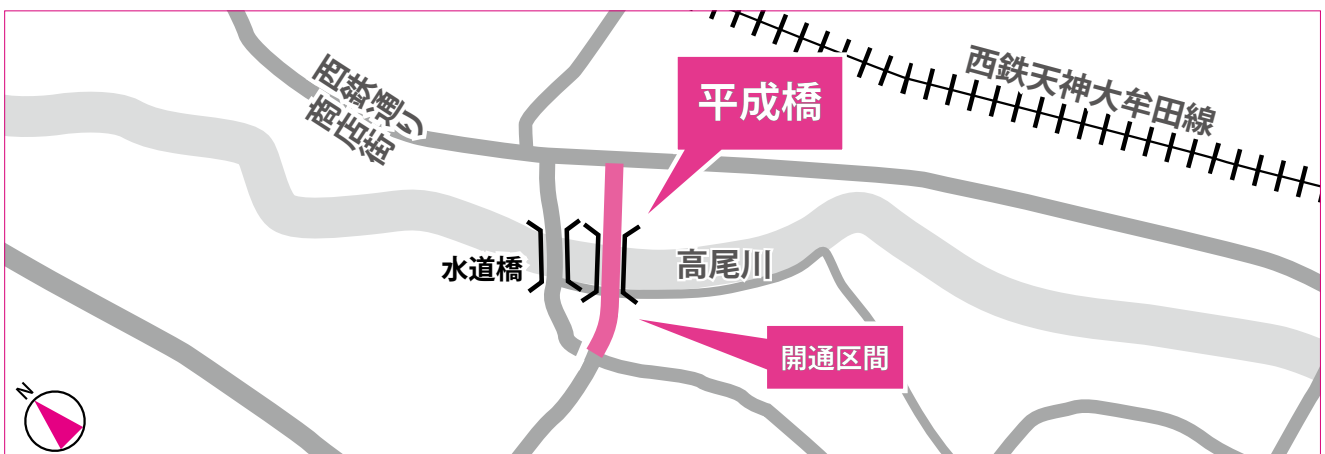


川の流れも、通行もスムーズになりました

開通式では、期成会会長の林田正義さんから「念願でありました高尾川地下河川築造工事が発注され、さらに平成橋が完成し、着実に安全なまちが形成されつつあります。関係する皆様の取り組みのおかげであり心より感謝しています。今後も工事完成まで地域の皆さんと一体となった活動を行なっていきたいと思います。」とあいさつがありました。

式典の後には、出席者の皆さんで新しい橋の渡り初めを行い、開通しました。

水道橋は、秋ごろに撤去する予定で現在は通行止めとしています。平成橋の通行をお願いします。



地域福祉推進の要

次（つぎ）の100年（ねん）に向けて
民生委員制度創設100周年記念講演会

筑紫野市民生委員児童委員連合会主催で、民生委員制度創設100周年を記念して生涯学習センターで講演会が開催されました。民生委員児童委員の皆様をはじめ、福祉委員のほか、各コミュニティ運営協議会、小中学校校長など約300人が参加しました。

大正6年に岡山県で始まった民生委員制度は、常に地域住民に寄り添い、身近な相談相手となり、行政などとのつなぎ役を担ってきました。連合会会長の石内 孝典さんからは「先輩方の使命感と情熱をもった活動と努力が100年にわたり人々の信頼を得て今日の民生委員児童委員制度が成り立っています。これからも地域住民の立場に立った活動を続けていきます」とあいさつがありました。



あいさつする石内会長



中村先生の呼びかけに応える参加者の皆さん

講演では、「これからの地域福祉と民生委員・児童委員活動」と題して、中村 秀一さん（九州大谷短期大学教授）から行われました。民生委員制度の創設100年の歴史をたどりながら現代社会の背景や問題などを取り上げ、「福祉とは何か」を基本に、楽しく、そして情熱的に話され、民生委員児童委員の皆さんを激励する講演となりました。

あらゆる危機に備えて

筑紫野市・太宰府市合同総合防災訓練を実施

「防災の日」である9月1日（金）に諸田多目的グラウンドで筑紫野市・太宰府市合同総合防災訓練を開催しました。

市が消防、警察、市民や地域の団体などと協力して行われたこの訓練。地震対策訓練では警固断層を震源とし、福岡地方に震度6強の地震が発生した場合を想定し、風水害対策訓練では記録的豪雨が予想され、大雨・洪水警報

が発表された場合を想定した連絡体制や取るべき行動を連携しながら、確認しあいました。

また、今年は隣国から弾道ミサイルが発射され、筑紫野市上空を弾道ミサイルが通過することを想定した避難訓練を初めて実施。緊張感の漂う空気の中で、それぞれが自分の役割を確実に遂行しました。



1 負傷者を救助する福岡県警救助隊 2 倒壊家屋から生存者を救助する消防隊 3 消防団は河川氾濫に備え土のうを築堤 4 プレハブの仮設住宅を設置 5 バケツリレーで消火活動